

出エジ6 出エジプト記4章18節～28節

「エジプトに向かうモーセ」

1. 文脈の確認

- (1) 神の計画は、イスラエルの民をエジプトから解放し、約束の地に導くこと。
- (2) 神はモーセを通して働こうとしておられる。
- (3) 4つの言い訳を並べて神の任命を断ろうとしたモーセも、ついに説得された。
- (4) モーセは、ついにエジプトに向けて出発することになった。
 - ①モーセには杖が与えられていた。
 - ②モーセにはアロンが与えられていた。

2. メッセージのアウトライン

- (1) モーセの決意
- (2) 神からの準備
- (3) 神からの警告
- (4) 神からの確認

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 奉仕にともなう犠牲を計算する。
- (2) 謙遜を身に付ける。
- (3) 幻が実現して行く過程を楽しむ。

このメッセージは、幻が実現するために必要なものを確認するためのものである。

I. モーセの決意(4:18～20)

1. しゅうとイテロの許可を得る。

「どうか私をエジプトにいる親類のもとに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか見させてください」

- (1) ヤコブの場合は、黙って伯父ラバンのもとを去った。
 - ①財産以外に、妻たちと子どもたちを連れて出た。
- (2) モーセは、しゅうとイテロと良い関係にあった。
 - ①無断で妻のチッポラと2人の息子たちを連れ出すことはしない。
- (3) モーセは、エジプトのイスラエル人たちと連絡を取っていなかったようだ。

- (4) モーセは、【主】の計画の全貌を語っていない。
- ①燃える柴については何も語っていない。
 - ②自分の使命についても語っていない。
 - ③アブラハムも、父の家を出て約束の地に向かう決心をした。
 - ④幻に捉えられた者と、そうでない者との間には、高い壁がある。

2. イテロの答え

- (1) イテロはモーセに「安心して行きなさい」と答えた。
- (2) 「無事で行きなさい」(新共同訳)
- (3) 旅の安全とモーセの繁栄を願った。

3. 一歩進むと、次のステップが見えて来る。

「【主】はミデヤンでモーセに仰せられた。『エジプトに帰って行け。あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ』」

- (1) イテロの家を出た後、まだミデヤンを出る前に、【主】からの語りかけがあった。
- (2) 「今が時だから、すぐにエジプトに行け」という意味である。
- (3) 理由は、「あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ」ということである。
 - ①パロは死んだ。
 - ②パロの高官たちは死んだ。
 - ③モーセが殺したエジプト人の友人たちは死んだ。
- (4) これは、モーセの心から恐れを取り除くための励ましのことばである。

4. 出発するモーセ

- (1) 妻のチッポラを連れていた。
- (2) 息子のゲルショムとエリエゼルも連れていた。
- (3) 当面、エジプトに住むつもりだったのだろう。
- (4) 「ろばに乗せてエジプトの地に帰った」
 - ①ろばは、高貴な人の乗り物であった。
 - ②僕が引くろばに家族を乗せてエジプトに向かった。
- (5) 「モーセは手に神の杖を持っていた」
 - ①かつては単なる羊飼いの杖であった。
 - ②今や、神の杖となった。
 - ③モーセはこの杖で数々のしるしを行うことになる。
 - *エジプトの地を10の災害で打つ。
 - *紅海の水を分ける。

*荒野に水を湧き出させる。

④私たちにとっては、「福音」であり「神のことば」である。

*聖書が、単なる本から「神の本」に変わる。

II. 神からの準備(4:21~23)

1. ここで語られている内容は、これから先の数章で起こることがらである。

- (1) エジプトに帰ったら、パロの前で神から与えられた不思議を行なえという命令
- (2) 神はパロの心をかたくなにするので、彼は民を去らせないだろうという預言
- (3) パロに警告のことばを語れという命令

「イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。…わたしの子を行かせて、わたしに仕えさせよ。もし、あなたが拒んで彼を行かせないなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの初子を殺す」

①神はイスラエルの民を「わたしの初子」と呼ばれた。

②古代世界では、初子は長子の権利を持った者として最も大切にされた。

③神は「初子」という言葉を用いて、ご自身と民との関係を説明された。

④これは、アブラハム契約に基づく親子関係である。

⑤神の初子を苦しめる者は、自らの初子を殺されることになる。

⑥パロの初子だけではなく、パロに属する者の初子すべてである。

⑦私たちクリスチャンは「神の子」と呼ばれるようになった。

*新しい契約に基づく親子関係

* Iヨハ3:1~2

* ロマ8:14~17

2. これらの予告は、モーセを解放者として整えるためのものである。

(1) イエスの弟子たちへの予告

①マタ10:5~42 宣教の拡大

②マタ28:18~20 大宣教命令

3. 神がパロの心をかたくなにしたのか。

(1) ロマ9:14~18が重要

「こういうわけで、神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままにかたくなにされるのです」(18節)

(2) 人間の側の責任

①人は、神によって心がかたくなにされるから滅びるのではない。

- ②人は、生まれた時点ですでに心がかたくなになっている。
- ③それは、アダムの子孫として、罪の性質を宿して生まれてくるからである。
- ④人は、すでに心がかたくなだから滅びる。

(3) 神の選び

- ①悔い改めに導かれるのは、神の選びとあわれみが注がれるからである。
- ②従って、誰が救われるかは、すべて神の御心にかかっている。
- ③そんなことは受け入れられないという人のために、パウロはこう語っている。
「しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、『あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか』と言えるでしょうか」(ロマ9:20)

Ⅲ. 神からの警告(4:24~26)

1. エジプトへの途上、主はモーセに現われ、彼を殺そうとされた。

- (1) モーセは致命的な病いに打たれ、危篤状態に陥った。
- (2) 妻のチッポラは、急いで自分の息子に割礼を施した。
 - ①弟のエリエゼル
 - ②包皮をモーセの両足につけた。
 - ③その結果、モーセは死を免れた。

2. 神はなぜ、出エジプトのリーダーとして立てたモーセを殺そうとしたのか。

- (1) モーセが息子に割礼を施していなかったので、神が怒った。
- (2) 割礼はアブラハム契約のしるしである(創17:9~14)。
 - ①イスラエルのすべての男子は、生まれて8日目に割礼を受ける。
 - ②モーセは、2番目の息子に割礼を施していなかった。
 - ③妻のチッポラが割礼を嫌悪したからと思われる。
 - *彼女が「血の花婿」という言葉を使っていることからそれが分かる。
- (3) 神はアブラハム契約の条項に違反しているモーセを殺そうとされた。
 - ①アブラハム契約の条項に違反したままでは、解放者の資格はない。
 - ②チッポラはすぐにそれに気づいて、急いで息子に割礼を施した。
 - ③そこで神は、モーセを放された。
 - ④「両足」は、男性の生殖器の婉曲語であろう。

*創49:10 メシア預言

「王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う」

* 「統治者の杖はその子孫から離れることはない」の意味

3. モーセは家族を家に帰した。

- (1) 彼女が次に聖書に顔を出すのは、出18：2になってからである。
- (2) 割礼を嫌ったチッポラは、大いなる奇蹟の目撃者にはなれなかった。

4. 私たちへの教訓

- (1) 人は、神が用意された方法でなければ救われない。
- (2) イエス・キリストは、アブラハム契約の成就としてこの地上に現われ、十字架上で自らの命を捧げることによって救いの道を開いてくださった。
- (3) イエスを信じることは、心に聖霊による割礼が施されることである。
- (4) 新約時代においては、心に割礼を受けているかどうかの問題である。

IV. 神からの確認(4：27～28)

1. アロンとの40年ぶりの再会

- (1) 【主】からアロンへの語りかけがあった。
- (2) 「神の山」、つまりシナイ山で再会した。
- (3) 口づけした。
 - ①兄弟との再会の喜び
 - ②イスラエルの民の解放者との出会い
- (4) これは、モーセが御心の道を歩み始めたことの確認である。

2. モーセはアロンにこれまでの経緯をすべて話した。

- (1) 【主】が語られたこと
- (2) 【主】が与えたしるし
- (3) アロンの役割

3. アロンについて

- (1) モーセの代弁者として活躍した。
- (2) 祭司職の創設に貢献した。祭司はアロンの家系から出た。
- (3) アロンが初代の大祭司となった。
 - ①特に重要な務めは、贖罪の日の務めである。
 - ②年に一度、至聖所の中に入って罪の贖いをする(レビ16章)。
 - ③アロン自身が、先ず自らの罪の清めを行ってから至聖所に入る。

*金の子牛を作る手伝いをした(出32章)。

*ミリアムといっしょになって、モーセの権威に挑戦した(民12章)。

(4) 真の大祭司は、イエス・キリストである。

①へブ7～10章

結論： このメッセージは、幻が実現するために必要なものを確認するためのものである。

1. 奉仕にともなう犠牲を計算する(神からの準備の項)。

- (1) 神の命令通りに行っても、結果が出ないことがある。
- (2) 預言者の召しは、ほとんどがそれである。
- (3) 神が私たちに期待しておられるのは、「成功」ではなく、「忠実さ」である。
- (4) 福音を伝え、結果は神に委ねる。

2. 謙遜を身に付ける(神からの警告の項)。

- (1) 神は、80年間かけて育てたモーセでさえも殺そうとされた。
- (2) 神に用いられるのは、恵みであり、特権である。
- (3) 決して傲慢になってはならない。
- (4) 英語の「Don't take it for granted that...」である。
 - ①当然[当たり前・もちろんのこと・常識・無論のこと]と考える。
 - ②[思い込む・見なす・独り決めする]
 - ③てっきり(that以下)だと思う、(that以下)をうのみにする。

3. 幻が実現して行く過程を楽しむ(神からの確認の項)。

- (1) 目的志向ではなく、そこに至る過程を楽しむ。
- (2) モーセとアロンは、夢を語り合うことを楽しんだ。
- (3) 明日に生きるのではなく、今に生きることを学ぶ。